

プレイバックシアター

吉川ひろみ

県立広島大学

このコラム「作業的存在」は、ある作業に熱心に関わっている人へのインタビューを通して、人生や社会にとって作業がいかに重要か、人や社会に作業がどのような影響を与えうるかを知ることを目的に創設した。第1回は「プレイバックシアター」という作業に取り組むお二人へのインタビューである。

2006年大学院の授業資料作成のために *Journal of Occupational Science* のバックナンバーを見ていたとき、「プレイバックシアター（以下PBT）」という言葉が目に入った（Rowe, 2004）。PBTは、観客が語るストーリーを役者が即興で演じるものだと書いてあった。次にPBTという語に出会ったのは、2010年に「作業療法ジャーナル」の特集のゲストエディターとして「作業療法教育」をキーワードにネット検索していたときだった。小森亜紀氏の「PBTと作業療法」という論文がネット公開されていたのだ（小森, 2006）。小森氏とは「作業療法ジャーナル」編集担当の高野裕紀氏を介してメールで連絡を取り合い、2011年9月に初めて劇団プレイバックーズによるPBTの公演を観る機会に恵まれた。その後現在までに合宿形式の研修に3回参加した。また、小森氏の協力を得て、授業や研究会でワークショップを4回開催した。こうした経過の中で、私は徐々にPBTとしっかり関わるようになってきている。

この記事は、2013年9月14日から16日、スクール・オブ・プレイバックシアターによって開催された「心の教育」というテーマの研修の終了直後のインタビューから作成した。「心の教育」は、私にとっては3回目の研修参加であり、緩やかなスケジュールの中で確実に学んだと感じることのできた素晴らしい経験であった。喜び、悲しみ、はがゆさ、あたたかさを心から感じるとともに、論理的思考（mind）とは対照的な心（heart）を育てる具体的手法を体験的に知ることができた。このような気持ちをもちながら、2013年9月16日の夕方、最初はPBT創始者のジョナサン・フォックス氏に、続いて日本でPBTの普及に尽力し、国際的連帯にも積極的に参加している宗像佳代氏にインタビューした。

文献

Rowe, N. (2004). The drama of doing: Occupation and the here and now. *Journal of Occupational Science* 11(2): 75-79.

小森亜紀 (2006) : プレイバックシアターと作業療法. http://www.playbackschool.com/graduate/a_komori.htm (アクセス日 2013.9.25)

小森亜紀 (2013). 作業療法学生の心を育む: プレイバックシアターワークショップを通して. *OT ジャーナル* 47: 330. 劇団プレイバックーズ. <<http://www.playback-az.com/index.html>>

スクール・オブ・プレイバックシアター日本校. <<http://www.playbackschool.com/>>

宗像佳代 (2006). *プレイバックシアター入門: 脚本のない即興劇*. 明石書店.

Fox, J. (1994). *Acts of Service: Spontaneity, Commitment, Tradition in the Nonscripted Theatre*. Tusitala Publishing, New Paltz, NY.

Fox, J. & Dauber H. (1999). *Gathering Voices: Essays on Playback Theatre*. Tusitala Publishing, New Paltz, NY.